

ライフ(生活の質)の向上につながるということ、臨床や教育で学ぶ機会があったいいのではないのでしょうか。



学部3-4年生の災害看護学の授業(参加型ワークショップ)(木下)

実務経験は教に不可欠 [木下] 社会全体見渡して行動する役割 [白石]

小木曾 実務の現場と学びの場で感じられている、葛藤やギャップはありますか。また、最後に実務家教員に期待する役割についてお願いします。

木下 看護は学問的にまだしっかりしていないと感じます。看護学で業績を上げている先生でも、実際は文化人類学や心理学など他分野の手法を取っている面があります。

実務家教員という特別なものがあるわけではなく、人に教えるためには実務のバックグラウンドがあった方がよりいいと考えています。そうでなければ本を読んでいけば、という話になってしまいます。特に専門職と呼ばれる分野では、実務家教員に学ぶ意義を知ってもらい、実務家教員がどんどん増えてほしいです。

白石 医師も看護師ももちろん専門職ではありませんが、産業界に出ていくと営業や企画の人たちもプロフェッショナルな経験を積んでいます。実務家教員は専門分野で知識があるだけでなく、広く

社会全体を見渡せる立場にあります。進化型実務家教員にも、社会のなかで何が必要か、そして自分に何ができるのか。そんなことを考え続け、行動し伝えていく大きな役割があるのではと思います。

小木曾 本日は大変貴重な経験やキャリアチェンジのお話をいただき、ありがとうございました。進化型実務家教員養成プログラムには、共通の基本コースに加え専門コースを4コース(経営実務コース、減災・医療コース、心理カウンセリングコース、スポーツ実務コース)設置予定です。進化型実務家教員養成に向け、一層プログラムの充実を図ってまいります。

きのした まり
木下真里さん

プロフィール

高知県立大学看護学部(災害看護学)准教授。公衆衛生の分野でも国外で経験を積んだ後、都内の専門医療機関で患者と向き合う仕事に従事。高知県立大学では次の世代に経験を伝えている。主な活動は、NGOピースウィングスジャパンの「ネパール国シンドゥルパルチョーク郡給水アクセス改善事業」の支援、国内の自治体などに対する「COVID-19×自然災害時の対策について専門的助言」など。研究テーマは、災害時全被災者の健康状態把握のための情報システム(COACHES)の開発、地域の感染症に対する対応能力向上プログラムの共同研究など。

しらishi
白石みどりさん

プロフィール

株式会社スノーム代表取締役。看護師、公認心理師。17年間、看護師として主に救急救命、集中治療室と終末期医療に従事。患者や家族、医療従事者に「心の支援」が不足し生きる意欲を低下させていることと感じ、大学の心理学科へ。経営学科で作成した事業計画で各ビジネスプランコンテストに出場し、多くの評価を得る。

2012年11月に株式会社スノームを設立。現在は、企業向けに心理支援サービスを展開し、休職発生率や復職後再休職率の減少、休職日数の短縮などで事業の生産性向上に貢献している。経済産業省主催UVGPの8位入賞、日刊工業新聞社主催「キャンパス・ベンチャー・グランプリ」など受賞。日本心身医学会会員、公衆衛生学会会員など。

TEEP実施委員会では、コンソーシアムの様々な情報発信についても積極的に行っています。詳しくは随時以下のWebサイトにて案内してまいりますので、ぜひご覧ください。

TEEP実施委員会事務局(名古屋市立大学 教務企画室内) <https://teep-consortium.jp/>



TEEP

進化型実務家教員
養成プログラム

VOL.12

NEWS LETTER

進化型実務家教員への扉

いよいよ、2021年春より「進化型実務家教員養成プログラム(TEEP)」基本コースの受講生を受け入れます。実務家教員インタビューの3回目は、コンソーシアムで取り組むTEEPに実施委員としても関わっていただいている、高知県立大学の木下先生と株式会社スノーム代表取締役白石さんに登場願いました。共に看護職としての豊かな経験をお持ちで、大学や社会のなかで実務家教員としても活躍されています。お二人からの熱いメッセージを伝えます。(文・小木曾早苗)

実務家教員インタビュー ③

インタビュー

●名古屋市立大学 高等教育院 特任助教 小木曾早苗



高知県立大学
災害看護学 准教授
木下真里さん



株式会社スノーム
代表取締役
看護師・公認心理師
白石みどりさん

看護にも新たな視点を

小木曾 実務家教員インタビューの3回目は、「進化型実務家教員養成プログラム(TEEP)」に実施委員としても関わり、実務家教員としても活躍されている二人に登場願いました。まずはそれぞれのご経歴を改めて教えてください。

世界飛び回る国際協力に従事 [木下] 現場一筋で鍛えられた17年 [白石]

木下 私は2019年から現在の高知県立大学に赴任してまいりましたが、それまではずっと実務や研究に携わってきました。そのうちの10年ほどは、海外で

の国際協力の仕事です。オセアニア、南極以外の大陸はすべて仕事で訪れました。

白石 私は高校の衛生看護科で学んで以来17年間、看護職をしてきました。働きながら正看護師の資格を取るため、午前中は神経内科の外来をこなし、午後は定時制の看護学校に通い、夜間は救急の当直をするなど、現場でバリバリ学び、働いてきました。1カ所にいることは少なく、救命の現場を中心に約2、3年で職場が変わりました。



ビジネスプランを発表する白石さん